

令和8年3月5日

令和7年度 とうきょう すくわくプログラム推進事業 活動報告書

園名	台東区立清島幼稚園
所在地	台東区東上野6-16-8

1. 活動のテーマ

<テーマ>

親子でワクワク レッツチャレンジ 体を動かすって 面白い

<テーマの設定理由>

清島幼稚園の園庭は決して広くない。しかし、併設する上野小学校の校庭や体育館、玄関ホール、清島公園を計画的に保育の中に取り入れることで、子供たちの豊かな経験の場を作り出している。

また、ライズチャレンジクラブ 坪田潤一郎先生に來園いただき、親子で楽しむことを目的として、親子体操を実施している。坪田先生は、子供たちの目線に立った指導をしてください。子供たちは、坪田先生と一緒に楽しい時間を過ごすことで、思わず体が動き、その後も意欲的に遊ぶようになる。

この体験はとても貴重である。憧れから体を動かす楽しさを感じてほしいと願い、テーマを設定した。

2. 活動スケジュール

6月 坪田先生 親子体操
6月～10月 運動遊びの探求
10月 運動会
12月以降 運動遊び体験の中における探求
12月 保護者評価アンケートの実施
1月～3月 振り返り 次年度計画立案 環境の再構成

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

親子体操体験・小学校校庭・体育館の借用
ボール・トランポリン・マットなど運動遊具の購入、環境の工夫
運動会を通して他学年の動きに興味や憧れをもつ環境の設定
好きな遊びを通して、一人一人の動きの探究活動を支える（雲梯。ひもと。縄跳びなど）

4. 探究活動の実績

<活動の内容>

楽しく体を動かす体験・坪田先生のスーパーマンのような動き見ることで憧れ、様々な動きに挑戦してみようと意欲的になる傾向になるため、巧技台、ストライダー、トランポリンなど、その物が思わず体を動かしたくなる。ワクワクしながら健やかに育っていく幼児を育成するため、体を動かす体験ができるよう環境を整え、体験を大切にする。また、好きな遊びの場面における環境を工夫する。

<活動中の子供たちの姿・声、子供同士や子供と保育者との関わり>

坪田先生の登場のシーンでは、子供たちは歓声を上げて食い入るように見ていた。その後、遊びながら体を動かすことを楽しんだ。

教師は、ボール・マット・トランポリンなど用具の環境の工夫として、人数に対しての数を工夫した。自分が遊ぶことが段階には、十分な数を出し、個々に試することができるようにした。また、少しずつ友達の動きをみたり、真似たりしてくるなど子供の姿に変化が見られた時には、数を減らし友達同士のつながりが生まれるようにした。新たな遊具を出したりするなど、年齢や時期、経験させたい内容、好きな遊びや集団で体を動かす遊びの中における動きの探求ができるように環境を工夫した。

<活動の様子>



5. 振り返り

子供たちは、繰り返し同じ動きをする中でも、その子なりの工夫をして少しずつ変化をさせている。同じジャンプでも両足、片足、高いところから、回りながらなど様々なバリエーションが生まれる。また、トランポリンの飛び方などは友達の飛び方を真似たり、自分の体を調整しながら新たな飛び方に挑戦したりして動きを変えて遊ぶことを楽しんでいた。

その他の運動遊びに関しても自らの試しの他に、他児の動きを見ることで真似ることによって動きの変化が生まれることもあった。年齢に応じては、イメージを持つことでより、動きが豊かになることもあった。運動会での表現活動では、大きな布を用いたことで友達と動きを考えるなど、動きのバリエーションを増やしながら表現することを楽しんでいた。

親子体操をすることや保護者への教育活動の発信（降園時や保護者会）等を工夫することにより、保護者評価アンケートにおいて、「園は校庭や公園等を活用し、体を動かすことを楽しいと感じられるように指導していますか」や「お子さんは、体を動かして遊ぶことを楽しんでいますか」という設問に対して高い評価を得ている。今後の課題として、広い場（体育館や校庭）をどのように活用していくか、場の使い方を考えていく必要がある。

以上